

地域・風土に合った学校を

— 2学期制の再考 —

河合 靖久

意外だった2学期制の進みぐあい

新潟県内での2学期制導入はどう推移しているのでしょうか。二年前の本誌81号(05年3月)の拙論で示した実施校34校より確実に増えています。

しかし、文末資料で見ると、市内の全小・中学校で実施中の柏崎市や長岡市を除き、当初「全小・中学校いっせいに実施」の方針だった新潟市でも、部分実施にとどまっています。県内全体では、市町村立全小・中学校800校のうち2学期制の学校は262校(33%)です。内訳は小学校169校(30%)、中学校93校(39%)で中学校の比率がやや高くなっています。

現在の各学校から、学期制にかかわらず様々な工夫

や取り組みが報告されています。学校の独自性や地域性を尊重することは、子どもたちの豊かな成長のために大切ではないのでしょうか。長岡市では、2学期制と「長期休業の弾力的な運用」がセットで導入されましたが、これ以前に各学校の自立性や自主性を認めていたら、混乱なく「特色ある学校」は実現できたのではないかと思います。新潟県で2学期制の先陣を切った柏崎市でも、7月末の行事「柏崎まつり」への子どもたちの参加のため「夏休みの開始日は一緒だが、休み後の授業再開日は各校に任せている」そうです。この事が、中越沖地震の際にも活用されたと聞きました。

学校の独自性は、地域と子どもの実態を熟慮した父母と教職員が協同で築くものではないでしょうか。

注視すべき点は、2学期制は、「教職員の意識改革・学校教育全体を見直すきつかけである」との主張です。

これまでの教育行政は、政策が破綻しても誰一人として責任を取らず、思いつきレベルの「新しい施策」を乱発し、学校現場に混乱を生み出してきました。

子どもたちの抱える課題や地域の実態に立脚し、教育現場の発想を活かす方策こそ大切と考えるのです。

そもそも、2学期制のメリットは……

学校を2学期制にしてどのようなメリットがあるのか、何のために必要なのか……以下は横浜市教育委員会の説明をもとにまとめましたが、その理由は全国的にほぼ共通しています。

① 教育課程の充実

- ・ 基礎・基本の確実な定着
- ・ 個に応じた指導と評価の充実
- ・ 授業時間数の確保

② 学びの連続性

- ・ 長いスパンでの学習計画
- ・ 自己学習力の向上
- ・ 学習への意欲や意識の向上

③ 教科や総合的な学習の時間の充実
教育活動の見直し

- ・ 学校評価の充実
- ・ 行事等の見直し
- ・ 教職員の意識改革

④ 学校と家庭の協力関係

- ・ 教育相談の充実
- ・ 児童・生徒理解の充実

2007年度2学期制実施学校数の比較

(小学校・中学校集計調査表より作成)

※2学期制実施合計 262校 (33%)

・小-6市町169校・中-7市町93校

・全校実施の自治体

柏崎市 ・小-27校 ・中-12校

長岡市 ・小-60校 ・中-26校

・混在(一部)実施の自治体

新潟市 ・小-76校 ・中-48校

燕市 ・小-4校 ・中-1校

新発田市 ・中-3校

村上市 ・中-2校

阿賀野市 ・小-1校

阿賀町 ・小-1校 ・中-1校

※3学期制実施合計 538校 (67%)

上記以外の27市町村と混在6市町の学校数

・小-393校 ・中-145校

もう少し具体的に見ると

- ・長期休業（夏休み・冬休み）前に通知表がない
- ・定期考査の回数が減る。3学期制の場合、1・2学期中間・期末、学年末と5回あるが、2学期制の場合は、前期中間・期末、後期中間・学年末と4回になる（但し、テスト回数を増やす学校も多い）
- ・秋休みが10月になる（ほぼ、体育の日の連休を中心にし、特別の休暇は取らない場合もある）
- ・夏休み中も「学期の途中」なので、行事や補習に使える。同様に、学期始めや終業式の行事の日にも授業を組むことが多い。（給食の回数が増える）授業時数を生み出すために、一日の授業時数も増える
- ・各学期が一〇〇日程の長い授業日になるので、年間を見通した学校行事や児童・生徒会活動ができる
- ・長期休業前の時期も落ち着いた学習活動に取り組ませる事ができ、長期休業に向けた指導を通して、指導・支援体制をとる事ができる
- ・学期の学習期間が長くて、絶対評価が活かされる
- ・始業式・終業式・評価業務が減り、年間授業総時数を増やし、時数に余裕を生ませる事ができる
- ・学校教育全体を見直すきっかけとなる

以上の理由で、全国の一部自治体に、強引に導入された2学期制は、現行制度の厳密な検証と総括を欠き、文科省・教育再生会議等の「報告」・「学力重視」の一方的要求が強く反映していると考えられます。

これまでも大学・短期大学・専門学校などの多くは2学期制（2期制）を実施していますが、小・中学校では3学期制が圧倒的でした。しかし「学力低下や教育改革」に対する国民的な不安と世論誘導とが相乗し、01年に滋賀県の小学校で2学期制が初導入され、翌年には宮城県仙台市の小・中学校の全校に導入されました。

2学期制の実施時に危惧された諸問題は、解消されたのでしょうか。子どもたちの適応性は高いので、心身への影響は、すぐには現れてきません。子どもたちの実態を調べ、教育現場の声をきちんと聞いた厳密な意味での検証が大切です。

2学期制を見直す動きも

県内でも2学期制試行の反省から、3学期制に戻す学校も出ています。

これまでも9年間2学期制をつづけてきた筑波大学付属坂戸高校は、04年に3学期制に戻しました。

当初、総合学科改変に伴って、選択の幅を広げるため前期科目・後期科目を設定しました。これには「余裕ができて良い」との意見もあつたそうです。

しかし、実施してみると

①日本の季節のメリハリに合わず、休業からの生活の切り替えが必要で、また暑い時期に考查となる

②部活動の大会等が考查時期に重なる

③教員の不足等で半期科目を十分に用意できないなどの理由から3学期制に復帰したそうです。

04年の長岡市の集会でも「昭和30年代から50年代の初めまで、国の教育政策で2期制を実業学校で行っていた。産業界の要請に答え、卒業後の即戦力のため、授業を7限までやり、テスト、始業式、終業式を減らした。」「長岡工業高校は、全国的にも遅くまで2学期制を続けたがその後3学期制に戻した。その反省点なども調べてほしい」との声が出ていました。

実施された学校の教職員からも、「もつと子ども・保護者や現場の声を聞いて」「2学期制は、結局4学期制で却って忙しくなった」との声が多く聞かれます。「評定やお知らせ」等の資料・報告文書の作成に追われ、子どもたちとの時間も作れず「ただ、詰めこみ、

押しつけるだけ……」の苦悩も多く報告されています。

反省点を生かし、教育の原点に返る勇氣も……

・教職員の数を増やし、学級の定員を減らすことで、子ども一人ひとりに目が行き届くようにする。

・指導要領と教科書を根本的に見直し、児童の負担を減らし、理解と応用力の身につく内容を追求する。

・地域に立脚し、父母との協力・共同で納得と信頼に包まれる学校づくりに、行政も力を合わせるなどの抜本的見直しの時期にきているのです。

世界中を探しても、長期の休業が、学期途中に入る国は見つからないのです。(新潟市教組・民研通信No.75)

高温多湿な日本の「夏への配慮」、学校や子どもを抱える深刻な課題への深い検討や討議も必要です。

制度の枝葉の「改革」による多忙化が、教職員と子ども・父母、地域住民とを敵対させてはいけませんか。

校長会アンケートに見る教育者の良識と良心

長岡市校長会のアンケート・記述欄の回答結果(長岡市・2期制検討委員会〇三年五月八日調)は、今でも有効なのではないでしょうか。

・現行制度の中でより効果的なことを探る方がよい
・年齢が低いほど細かい区切りが必要。小学校には、これまでの3学期制が必要

・学校、保護者、子どもからの要求も出ていない
・2学期制の根拠が不明だ。学期の途中に長期休業が入って学習が中断され、仕事も煩雑になる
・長岡の気候、生活やリズム、行事等3学期制の方が合致している

2学期制を慌てて推進するより、これらの意見の方が理に叶っているように思えるのです。

国民の未来につながる教育制度の改革ですから、回答には「急いで導入したら大変なことになる」との、学校をまとめるリーダーとしての良識と良心に裏付けられた貴重な意見が多かったのです。

制度・政策の「改革」で教育現場が混乱

これまで、20年来の文科省の迷走する教育政策の押しつけで学校は、混乱と混乱を繰り返してきました。「ゆとり教育」による「意欲・関心・態度」を重視する学習指導は、「できないのも個性」と頑迷に主張し、教師は、「教えるはいけない」とまで言い切ったのです。

これらの反動もあつて「学力低下」が社会問題化すると「学力向上」に偏った方向転換で、授業時数の確保・小学校の低学年でも午後の授業を増やすなど強行し、自由な放課後の活動時間まで奪いました。

愛国心や道徳教育の強調……。これまで、教育現場に倫理性や哲学を欠く「安易な施策」を、見通しも示さずに押しつけてきた責任は、だれが負うのでしょうか。教育現場の混乱で教職員に疲弊をもたらした最大の被害を、子どもたちが受け続けているのです。

様々な課題を抱えた子どもたちを前に、「いつまで先生を続けられるのだろう……」とまで教師に言わせている現実を、もつと直視すべきだと思つたのです。

教育改革は、ILO・ユネスコの「教員の地位に関する勧告」に、「教員団体は教育政策の決定に関与すべきで、教員団体の緊密な協力が必要」との論考があることに注目すべきではないでしょうか。市川氏の言う、「(教育者や保護者・子どもの)関係者が役割を果たせるように教育行政が変わる時、子どものための教育改革は着実に前進する」(市川哲「ひろは・京都の教育」No.152・京都教育センター)のではないのでしょうか。

(かわいやすひさ・所員)

2007年度 市町村立・中学校の学期制一覧

07年7月9日現在

| 番号 | 市町村名 | 学校数 | 小学校 | | | 中学校 | 学期制 | | 小・中合計 | | 2学期制 実施率 |
|---------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-------------|
| | | | 3学期 | 2学期 | 3学期 | | 2学期 | 3学期 | 2学期 | | |
| 政令市 | 新潟市 | 171 | 114 | 38 | 76 | 57 | 9 | 48 | 47 | 124 | 72.5% |
| 1 | 上越市 | 76 | 54 | 54 | 0 | 22 | 22 | 0 | 76 | 0 | 0.0% |
| 2 | 糸魚川市 | 23 | 18 | 18 | 0 | 5 | 5 | 0 | 23 | 0 | 0.0% |
| 3 | 妙高市 | 17 | 13 | 13 | 0 | 4 | 4 | 0 | 17 | 0 | 0.0% |
| 4 | 長岡市 | 86 | 60 | 0 | 60 | 26 | 0 | 26 | 0 | 86 | 100.0% |
| 5 | 三条市 | 33 | 24 | 24 | 0 | 9 | 9 | 0 | 33 | 0 | 0.0% |
| 6 | 柏崎市 | 39 | 27 | 0 | 27 | 12 | 0 | 12 | 0 | 39 | 100.0% |
| 7 | 小千谷市 | 17 | 12 | 12 | 0 | 5 | 5 | 0 | 17 | 0 | 0.0% |
| 8 | 加茂市 | 12 | 7 | 7 | 0 | 5 | 5 | 0 | 12 | 0 | 0.0% |
| 9 | 十日町市 | 38 | 28 | 28 | 0 | 10 | 10 | 0 | 38 | 0 | 0.0% |
| 10 | 見附市 | 12 | 8 | 8 | 0 | 4 | 4 | 0 | 12 | 0 | 0.0% |
| 11 | 燕市 | 20 | 15 | 11 | 4 | 5 | 4 | 1 | 15 | 5 | 25.0% |
| 12 | 魚沼市 | 17 | 11 | 11 | 0 | 6 | 6 | 0 | 17 | 0 | 0.0% |
| 13 | 南魚沼市 | 26 | 20 | 20 | 0 | 6 | 6 | 0 | 26 | 0 | 0.0% |
| 14 | 弥彦村 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0.0% |
| 15 | 田上町 | 3 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0.0% |
| 16 | 出雲崎町 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0.0% |
| 17 | 川口町 | 4 | 3 | 3 | 0 | 1 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0.0% |
| 18 | 湯沢町 | 6 | 5 | 5 | 0 | 1 | 1 | 0 | 6 | 0 | 0.0% |
| 19 | 津南町 | 9 | 7 | 7 | 0 | 2 | 2 | 0 | 9 | 0 | 0.0% |
| 20 | 刈羽村 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0.0% |
| 21 | 新発田市 | 36 | 26 | 26 | 0 | 10 | 7 | 3 | 33 | 3 | 8.3% |
| 22 | 村上市 | 10 | 7 | 7 | 0 | 3 | 1 | 2 | 8 | 2 | 20.0% |
| 23 | 五泉市 | 16 | 11 | 11 | 0 | 5 | 5 | 0 | 16 | 0 | 0.0% |
| 24 | 阿賀野市 | 18 | 14 | 13 | 1 | 4 | 4 | 0 | 17 | 1 | 5.5% |
| 25 | 胎内市 | 12 | 8 | 8 | 0 | 4 | 4 | 0 | 12 | 0 | 0.0% |
| 26 | 聖籠町 | 4 | 3 | 3 | 0 | 1 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0.0% |
| 27 | 阿賀町 | 13 | 9 | 8 | 1 | 4 | 3 | 1 | 11 | 2 | 15.3% |
| 28 | 関川村 | 6 | 5 | 5 | 0 | 1 | 1 | 0 | 6 | 0 | 0.0% |
| 29 | 荒川町 | 3 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0.0% |
| 30 | 神林村 | 7 | 5 | 5 | 0 | 2 | 2 | 0 | 7 | 0 | 0.0% |
| 31 | 朝日村 | 6 | 5 | 5 | 0 | 1 | 1 | 0 | 6 | 0 | 0.0% |
| 32 | 山北町 | 3 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0.0% |
| 33 | 粟島浦村 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0.0% |
| 34 | 佐渡市 | 49 | 33 | 33 | 0 | 16 | 16 | 0 | 49 | 0 | 0.0% |
| 市町村立学校数 | | 800 | 562 | 393 | 169 | 238 | 145 | 93 | 538 | 262 | 32.7% |

(新潟県教育委員会ホームページより作成)